平成25年7月1日

会員各位

協会だより-247(7月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

• 第217回月例会(講演会・懇親会)の開催は7月3日(水)15:00 開始になります。早めにお集まりください。



©Takashi Matsuda

一、協会よりのお知らせ

「実施済事項」
「予定事項」
「予定事項」
「予定事項」
「予定事項」
「予定事項」
「予定事項」
「予定事項」
「予定事項」

1. 協会よりのお知らせ

[実施済事項]

- ① 協会だより-246 (6月号) をメール&郵便で送信 (6/3)
- ② 平成25年度会員名簿の作成と発送(6/12)
- ③ 第219回月例会(一泊研修会)幹事会

日時:6月21日(金)15;30~

場所: 堺化学工業㈱東京支店

出席:担当運営委員(新崎運営委員、川上運営委員)

幹事会社(太陽鉱工、田中貴金属工業、ヘレウス)、専務理事

「予定事項」

① 第217回月例会(講演会)の開催

日時: 平成25年7月3日(水)15;00~

場所:ニュー新橋ビルB2ホール (講演会) ・ビヤホールライオン新橋店2F (懇親会) にて

演題:マイクロリアクターを応用した化学反応

講師:田中紀子氏(シグマ アルドリッチ ジャパン合同会社)

② 第二回運営委員会

日時: 平成25年7月18日(木)16;00~17;00

場所: 堺化学工業㈱東京支店

出席:運営委員、第218回幹事会社(川研ファインケミカル、キンキメタル産業)、事務局

議題:1. 見学先:旭硝子千葉工場の見学日時等、

2. 一泊研修会の進展状況

2. 代表者交代・担当者の交代お知らせ

代表者の交代

1. エヌ・イーケムキャット株式会社

(前) 代表取締役社長 成尾友良殿 ⇒ (新) 代表取締役社長 竹内 滋殿

6月11日開催された株主総会および取締役会において代表取締役社長に就任されました。

2. ジョンソン・マッセイ・ジャパン合同会社

(前) ゼネラルマネージャー アロック・ケータン殿 ⇒ (新) 社長 木村宗雄殿

6月1日付けで就任されました。

3. 神鋼リサーチ株式会社

(前) 代表取締役社長 大友朗紀殿 ⇒ (新) 代表取締役 黒坂俊雄殿

6月13日開催された株主総会および取締役会において代表取締役社長に就任されました。 なお大友朗紀殿は顧問役に就任されました。

• 担当者の交代

1. 泰和株式会社

(前) 技術課長 渡邊眞一殿 ⇒ (新) 技術課長代理 景政 治殿 7月1日付け人事異動による担当者の交代です。

3. 新規入会会員の紹介

【株式会社メタルドゥ】〒550-0003 大阪市西区京町堀3-4-6

Tel:06-6448-5151 FAX:06-6448-5757

資本金: 98000千円 、従業員数 53名

代表者:代表取締役社長 山頰敏彦殿 協会担当者:管理部総務課々長 竹中一美殿

[URL] http://www.raremetal.co.jp/

・7月1日付けでの正会員・入会が役員会にて承認されました。

5. 事務局より(7月の予定)

+4xxx4x / (1)13 1/E/					
月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6
0	0	217 回月例会	×	0	×
8	9	1 0	1 1	1 2	1 3
×	×	×	×	×	×
1 5	1 6	1 7	18	1 9	2 0
海の日	\circ	×	運営委員会	0	×
2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7
×	0	×	×	0	×
2 9	3 0	3 1	8/1	8/2	8/3
	0	×	0	0	×

事務局延べ出勤予定:10日(○;終日、△;半日、×は休日)。

【雑学】奥の細道(11-2)いよいよ県境の町 糸魚川・朝日・滑川へ

北陸街道最大の難所・親不知は北陸本線の青梅から市振の間です。鉄道は親不知トンネルで通過してしまいます。飛騨山脈が直接日本海に落ち込む親不知はどんな場所でしょうか。

【親不知】

海に落ち込む断崖に、辛うじてある岩石の海岸を波のまにまに急いで通過する江戸時代・明治初期までの北国街道親不知が第一世代、明治 11 年、明治天皇の北陸巡幸に合わせて完成した海抜300 mの位置の崖を開削した第二世代、自動車の時代になって緩やかなカーブとトンネルを有する国道が第三世代、さらには昭和 63 年に開通した一部海上に橋脚を立てて工事をした北陸自動車道が第四世代と言われています。

海抜 300mの絶壁に作られた第二世代の国道には記念碑「**如砥如矢」が**モニュメントとして残されています。私たちは、親不知観光ホテルの脇道より、この海抜 300mを親不知の海岸へ下ってみました。急勾配の階段道は、帰りの登りを考えると止めときゃ良かったか?と思う場所でした。





左下の写真は第二世代の道路より 300m下の古来から通っていたであろう第一世代の道路「親知らず」の一部海岸です。崖が海に突入していて今で言う道路の形はありませんが、凪の時でなければ通れないでしょう。右下の写真は第四世代の北陸自動車道です。基本はトンネルですが親不知の I Cに接続するために一部海上に橋脚を立てて建設され、道路は海上を通過しています。今昔の進歩のあとが忍ばれます。





私たちは一度、道の駅「親不知ピアパーク」に戻り、昼食の時間となりました。とても暑い日でしたので、つい生ビールを注文。昼食後、新潟県の最西部(富山県との接点)である市振(糸魚川市青海町)へと向かいました。さて、芭蕉さんは親知らず・子知らず・犬戻り、駒返しなどの北国一の難所を越えて市振の宿に泊まりました。ここで有名な句を読んでいます。江戸時代越後の関所があり、旅籠も多く賑わっていたといわれています。市振の集落に入ると「海道の松」がお出迎えです。東へ向かう昔の北陸街道は、この松から海岸へ下りて、おびえながら天下の険/親不知子不知を越えることになったといわれています。命がけで10kmほどの親不知の波間を越えてきた旅人は海道の松ま



一つ家に 遊女も寝たり 萩と月

でたどりほっとして市振の宿に入りました。

市振の宿では一間隔てて伊勢まで行くという新潟の遊女二人ばかりの声が聞こえる。その時の句が下の句碑です。

句碑は長円寺境内にあり、郷土の文豪相馬御風の書で大 正十四年に建立されました。

曾良の日記に、・・・申の中**村、市振に着、宿**。とあり市振での宿の名前は記録されていませんが、桔梗屋といわれています。下の民家が桔梗屋の跡地といわれています。



【市振の関所跡】



徳川幕府が作った全国で五十三の関でも市振の関は重要二十三番目の関 といわれています。東に親不知の難所を抱え、西には加賀藩。

加賀藩を警戒する徳川幕府は、高田城主 松平光長に命じてここに関所を作らせました。この関所の特徴は行旅の人々の検問と、海上監視の遠見番所からなっていたことです。この関所を通ると次は加賀藩の堺の関所(富山県朝日町堺)です。今でも新潟県と富山県の県境であり、境とよばれた境川で隔てられています。今の富山県の東部と西部のほとんどが加賀藩で中央(現在の富山市)付近一部が富山藩でありました。従って越後と越中の国堺である堺は加賀藩の治世下にありました。

【堺の関所跡】

市振の関所が徳川幕府に対して、堺の関所は加賀藩が守りのために置いた藩最大の関所です。私たちは朝日町境の関の館に寄って加賀藩の歴史の勉強です。

曾良さんの日記では「十三日 市振立。虹立。玉木村、市振より十四五丁有り。中・後の堺、川有。 渡って越中の方、堺村と云。加賀の番所有。出手形入るの由。・・・」とあり、芭蕉さん達も関所を





通った後、滑川に向かっています。

おくのほそ道では越中に入って詠んだ唯一の句は「**早稲の香 や 分け入る右は ありそ海**」です。この句碑は朝日町境の児 童公園らしき場所にあります。

この俳句の句碑は富山県の他の市町村にも建立されています。朝日町の地元でも、あまり注目されていないためか境の街歩きマップにも取り上げられておりません。午後からはかなり激しい雨となりゆっくり見物する気持ちの余裕がありません。境を出発し本日最後のビューポイントである、滑川市の檪原神社と徳城寺に向かいます。檪原神社には(初蝉)の「しばらくは花のうへなる 月夜かな」の句碑が建立されています。







【徳城寺】滑川市上小泉 2005

天台宗の神明山徳城寺といい、元禄二年、滑川にて芭蕉さん達が泊まった場所といわれています。お寺のパンフには表紙の一番上に「芭蕉翁宿泊ゆかりのお寺」と日本語、英語、ハングル語でさらっと記しています。芭蕉さんの七十忌に建てられた「有磯塚」早稲の香や 分け入る右は 有磯の海」は風化を避けるためかガラスケースに収められています。右脇にはレプリカと思しき句碑があり、判り易くマジックで文字をなぞって建てられています。



さて、本日の見学を終えた私たちは、複合ビル

の中に有る、今日のお宿《高岡マンテンホテル駅前》を目指し北陸自動車道で高岡へ向かいます。砺波には会社時代の同僚、田辺貞画伯(定年後本来の画家に戻る)が住んでいます。雨の中、田辺貞・和子夫妻がホテルまで出迎えて頂き、その夜は地酒と地場の肴で楽しい懇親の時間を過ごしましました。明日見学する国宝・瑞龍寺の画伯のペン画を以前、協会だよりで紹介したことがありますが、再度ご紹介いたします。

《高岡市》

富山県第二の都市(人口おおよそ17万7千人)で、北部の伏木地区は、古代より越中の国の国府が置かれ、大伴家持が国司として中央より赴任していました。家持が後の万葉集の編者であったという謂れから万葉の里といわれています。家持らが詠んだ詩が多く残され、第三セクターの路面電車も万葉線と名付けられています。2014年開業を目指している北陸新幹線の駅は、現在の高岡駅に入らないのでJR城端線との交差する場所に新高岡駅(仮称)が建設中です。また高岡市のホームページ上にはシンボル化した家持くんと利長くんがお出迎えです。

【瑞龍寺】高岡市関本町35

ホテルで朝食後、朝一番で私たちは瑞龍寺に向かいます。瑞龍寺は加賀二代藩主前田利長公の菩提を弔うため三代藩主利常公によって建立されたお寺です。平成9年12月3日、山門、仏殿、法堂が国宝に指定されました。造営当時は3万6千坪を有し仏殿の屋根は鉛板で葺かれ、いざと言う時は溶かして鉄砲玉が作れたといわれています。





右のペン画が平成19年11月に紹介した田辺画伯の作品です。モディファイされていますが重厚 感溢れる画となっています。左は当日、小林が写したものです。

続いて前田利長公の墓所を見学し、射水市の奈呉の浦(放生津八幡宮)に向かいます。

【放生津八幡宮】

天平十八年(74 6)大伴家持が越中 の国司として赴任。 奈古之浦の風光を愛 して豊前の国宇佐八 幡神を勧請して奈古 八幡宮を興すと伝え られています。

境内には家持の歌 碑が沢山建立されて います。





【文責・専務理事】